

南知多町産業まつり 健康相談コーナー (愛知県)

職域からのニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実態調査から把握した             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健診後の事後指導の場の確保</li> <li>・ 地域産業保健センターの認知度の拡大</li> </ul> </li> </ul>
事業の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画する上で重視したこと             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健診後の事後指導の場の確保</li> <li>・ 新たな事業を立ち上げるのではなく、既存の行事を利用</li> <li>・ 職域保健と地域保健が連携して実施</li> </ul> </li> <li>○満たせなかった要求             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康診断後の事後指導の場の確保について定着させたかったが、事前に意思統一をするための話し合いを持たなかったので、こちらの意図が上手く伝わらなかった。</li> </ul> </li> <li>○計画立案の主体             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画調整担当の保健師、美浜支所保健師</li> <li>・ プラスチック団地の経営者の方々</li> <li>・ 南知多町保健師</li> </ul> </li> </ul>
事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業の内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知多地域産業保健センターによる健康診断の事後指導</li> <li>・ 知多地域産業保健センターのPR</li> <li>・ 健康相談、歯科相談、ニコチンパッチ、アルコール診断、食生活診断、住環境アンケート</li> </ul> </li> <li>○人的資源             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知多地域産業保健センター…医師、事務職</li> <li>・ 南知多町…事務職、保健師、看護師、食生活改善推進員、</li> <li>・ 保健所…所長、歯科医師、歯科衛生士、栄養士、環境衛生監視員、精神福祉相談員、保健師、事務職</li> </ul> </li> <li>○周知方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健所でチラシを作成し、商工会から対象に配布。</li> </ul> </li> <li>○実施上の工夫             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業まつりで健診後の事後指導の場を設定するため、プライバシーを守る工夫をした。</li> <li>・ 産業まつりに参加し、健康意識を広げることは成功したが、一番の目的であった事後指導については、健診結果を持って事後指導に来る方が非常に少なかった(連絡等が上手くいっていなかった)。</li> </ul> </li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加者             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業まつり終了後、実施しての評価と今後どのようにして取り組んでいくか会議を持った。</li> </ul> </li> <li>○事業所             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企画に入ってもらった。</li> <li>・ 産業まつりでも積極的参加があった。</li> </ul> </li> <li>○南知多町は継続を要望</li> <li>○保健所             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後指導については健診結果を持って事後指導に来る方が非常に少なかった。商工会や各事業所への連絡を事前につめておくべきであった。</li> <li>・ 管内 10 市町で産業まつりを実施しているため、中小企業の事後指導の場として、産業まつりを利用していくことも考えている。今年度は、上手くいかなかったところを修正し、形として残していきたい。今後は地域産業保健センターが主体的に動いていただけよう考えていきたいと思っている。</li> </ul> </li> </ul>
継続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予算の確保 : 地域保健推進特別事業</li> <li>○人的資源 : 連携をとり実施する予定</li> </ul>

FD”私の健康手帳“の作成 (三重県)

ニーズ	○総合計画「ヘルシーピープルみえ・21」の「ヘルピー活性化会議」の中で「ヘルピー小委員会」を立ち上げ、生涯を通じて健康情報を管理するための“私の健康手帳”の検討が始まった
事業の実施	○事業の内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生涯にわたる健康情報の管理を目的にした“私の健康手帳”の作成、活用、評価</li> </ul> ○人的資源 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議会メンバーで検討</li> </ul>
評価	○活用のための関係機関の連携が必要となるが、この部分での合意形成を図るには、さらにメンバーの組み替えが必要
継続性	○管内保健師研修会で「地域・職域保健の連携」をテーマに話し合いを繰り返し、連携の具体策を検討している

防府管内地域職域連携保健事業計画の策定 (山口県)

事業の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画で重視した点           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所に分かりやすくするため、正確、的確、簡潔、平易なものとして示すことを重視した。</li> <li>・ 連携推進を図るにあたり、事業取組みのPRを兼ねた計画書と報告書を1冊にまとめたものとした。</li> </ul> </li> <li>○満たせなかった要求           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当計画書は協議会、作業部会の意見や事業所へのアンケート調査結果によるニーズ等が基礎となっているが、このような行政主導の会議やアンケート調査等からだけでは真のニーズは確認できない。</li> </ul> </li> <li>○計画立案の主体           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作業部会</li> </ul> </li> </ul>
事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業の内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職域保健と地域保健の説明、連携の必要性、管内の状況、モデル事業の取組紹介、連携推進の課題、問題点、効果的、効率的な点等、これからの方向 等</li> </ul> </li> <li>○人的資源           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推進協議会及び作業部会</li> </ul> </li> <li>○対象者           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所 (住民)</li> </ul> </li> <li>○実施上の工夫           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所に分かり易いように、図を多くし、文章は簡潔、明瞭となるよう心がけた。</li> </ul> </li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○参加者           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画書の中で、各事業毎に参加者の意見を記載した。</li> <li>・ 評価に関する変化は、今後の取組の中から確認していく。</li> </ul> </li> <li>○事業所           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商工会議所、商工会では「健康問題は大切なテーマの1つである」との認識が高くなり、継続していくこととなった。</li> <li>・ モデル的に取り組んだことにより、健康に対する意識改革のきっかけづくりとなった。</li> </ul> </li> <li>○保健所           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回は期間を限定したものであったが、真の取組みはこれからである。</li> <li>・ 今後は、事業所によかれとして一方的に決めることのないよう、事業所の立場に立って、共に考えていく姿勢でのぞむこととしている。</li> <li>・ 管内目標として、次の目標を設定した               <ul style="list-style-type: none"> <li>小目標 健康への関心を高めよう</li> <li>中目標 生活習慣病予防の推進</li> <li>大目標 いきいきと 活力あるまちづくり</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
継続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業を継続の具体的方策           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モデル事業の計画を変更する必要がある、事業所の意見を取り入れながら修正して行く。</li> </ul> </li> <li>○人的資源           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議会の推進体制による。</li> </ul> </li> <li>○社会経済情勢の変化等にあわせて見直し等を検討する。</li> </ul>

たばこ対策に関する指導（高知県）

<p>職域からのニーズ</p>	<p>○職域からのニーズ</p> <p>* 3つの事業所で実施したので、それぞれについて記載する</p> <p>A 事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成14年度に実施した調査の結果、喫煙者が多く、その7割が禁煙を希望していた。</li> <li>・ 受動喫煙対策がなされていなかった。</li> </ul> <p>B 事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所側は体力測定のみを希望していたが、職場訪問時受動喫煙対策が不十分であることが判明した。</li> </ul> <p>C 事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以前実施した職場環境診断で、受動喫煙防止対策を講じるよう提言を行ったが、改善が認められないため、就業者への健康教育が必要と判断した。</li> </ul>
<p>事業の計画</p>	<p>○計画で重視した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3事業所ともに、受動喫煙防止対策の理解を主目標にした。</li> </ul> <p>○職域からのニーズを満たした計画を作成した</p> <p>○満たせなかった要求</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続した関わりを行えなかったことや、ひとつの事業所については衛生管理者のみへのアプローチに留まったことが原因と考えられた（今後就業者へのアプローチも考えている）。</li> </ul> <p>○計画立案の主体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健所長（医師）高知大学医学部公衆衛生学教室（医師） 保健所スタッフ（保健師・事務職・医師）</li> </ul>
<p>事業の実施</p>	<p>○事業の内容</p> <p>A 事業所 ・ 集団での健康教育（受動喫煙が主。1年間の定期的確認とフォロー、指導）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別禁煙指導</li> </ul> <p>B 事業所 ・ 職場環境診断とそれに基づいた提言</p> <p>C 事業所 ・ 集団での健康教育（受動喫煙が主）</p> <p>○人的資源</p> <p>A 事業所 ・ 村の保健師、保健所</p> <p>B 事業所 ・ 大学公衆衛生学教室、保健所、県庁担当課</p> <p>C 事業所 ・ 保健所</p>

	<p>○対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A事業所：受動喫煙防止対策は全員、禁煙支援は希望する者。</li> <li>・ B事業所：環境診断の実施のみで対象者なし。</li> <li>・ C事業所：全員。</li> </ul> <p>○実施上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A・C事業所：講義だけでなく実験を併用した。</li> <li>・ B事業所：威圧的でない、実施可能な提言にした。</li> </ul> <p>○実施上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B事業所：環境診断日に就業者の出張が重なり、平常の喫煙状況の把握ができなかった。</li> </ul>
評価	<p>○参加者</p> <p>A事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務所内や移動バス内での分煙が徹底されつつある。</li> <li>・ 個別の禁煙指導希望者4名のうち1名は禁煙に成功した。</li> <li>・ 自ら禁煙したという就業者も現れた。</li> </ul> <p>B事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成15年度は環境調査のみを実施し、その結果を衛生管理者に説明した。この結果を踏まえ、今後の健康教育実施につなげたい。</li> </ul> <p>C事業所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受動喫煙防止対策は徹底できていない。 (健康教育1ヵ月後の聞き取り調査)</li> </ul> <p>○事業所</p> <p>A事業所：事業所と村両者から今後について相談があった。</p> <p>B・C事業所：継続の要望はない。</p> <p>○保健所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康教育実施後のフォローが十分にできていない。</li> <li>・ 非喫煙者の受動喫煙に対する正しい知識の普及が重要。</li> </ul>
継続性	<p>○モデル事業終了後も継続する。</p> <p>○事業を継続するための具体的な方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算の確保：旅費のみの確保で実施可能。</li> <li>・ 人的資源：環境診断は専門的知識を要するので、アドバイザー的人材が必要。</li> </ul>